more trees 被災地支援プロジェクト
LIFE311 報告書

～2018.3.31

一般社団法人 more trees

「LIFE311」とは

more trees 被災地支援プロジェクト「LIFE311」は、東日本大震災発災後に岩手県住田町が町単独で建設した木造仮設住宅の建設費用を支援し、同住宅に東北の厳しい冬を乗り切るための木質ペレットストーブを寄贈することを目的に、民間からの善意を募るためにスタートしたプロジェクトです。

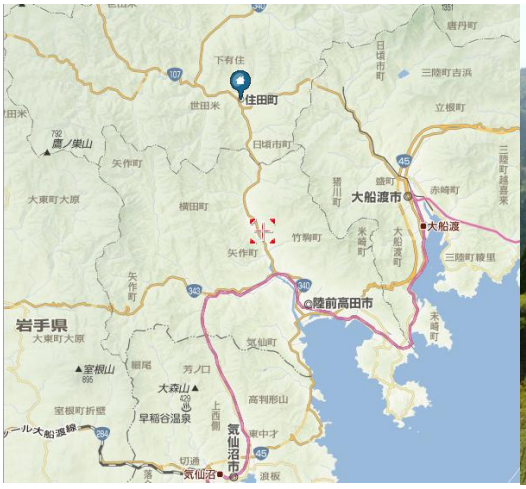
2011 年 4 月には Web サイトを開設し、木造仮設住宅建設や木質ペレットストーブを設置することの意義を広く知っていただくとともに、支援目標 3 億円を掲げ、法人・個人を問わず皆さまよりご寄付を募って参りました。
2018 年 3 月末現在、236,065,344 円の支援金が寄せられています。
支援目標の 3 億円まで残り、約 6,393 万円です。

「LIFE311」のはじまり

日本中の人のみならず、世界中の人々が心を痛めた、2011 年 3 月 11 日。
more trees は、東日本大震災の発災以来、これまでの森林保全活動を踏まえ「森の恵み」を活かした復興支援活動を検討していました。
震災復興には、「住まい」が必要であり、「住まい」が「LIFE の再生」のベースと考えました。これまでプレハブが主流であった仮設住宅に「森の恵み」をどう活用すべきかを模索するため、震災直後に被災地を訪れた際、住田町の木造仮設住宅建設の取組みを知りました。

住田町

「LIFE311」で支援している木造仮設住宅がある岩手県住田町は、岩手県の東南部に位置する人口約 6,000 人の町です。
面積の約 90%を森林が占め、林業・木材加工が盛んな町で、山づくりから住宅建築までの一貫したシステムを持ち、「森林・林業日本一の町」をスローガンに掲げています。
隣接する陸前高田市、大船渡市は住田町と共に「気仙地方」と呼ばれ、藩政時代から経済的・文化的に結びつきの深い地域です。



木造仮設住宅による被災者支援

住田町は、いつか来る災害に備え、地域の豊富な森林資源を有効活用した「木造仮設住宅」の構想を東日本大震災前から進めていました。そして震災直前の 3 月初旬には図面や仕様がほぼ完成していました。

地元の木材を使用し、地元の工務店が施工する木造仮設住宅の建設は、地域および林業の活性化にもつながる取組みです。

住田町は、沿岸部の大船渡市、陸前高田市に隣接していますが、津波による直接的な被害を免れました。結びつきの深い地域の被災者のみなさんを早く避難所生活から解放して差し上げたいという想いから、発災からわずか 3 日後に木造仮設住宅の建設が決定されました。

2011 年 3 月 22 日に着工した木造仮設住宅は、町内 3 か所に計 93 棟建設され、他の地域に比べ異例の速さとなる 5 月 2 日~31 日にかけて順次入居が開始されました。

「LIFE311」の支援先を住田町に決定した理由

・津波被災地である岩手県陸前高田市、大船渡市の隣接自治体である
・住田町は震災前から既に木造仮設住宅の構想をしていた
・住田町は「森林・林業 日本一」を目指す自治体であり FSC（森林認証）も取得していた
・町として独自で仮設住宅を作ることを明言し、いち早く行動に移した
・使用できる町有地の広さから、先ず約 100 棟が建設できる状態にあった
・木造仮設住宅の建設がはじまっていたが、資金面での支援を求めていた

住田町の木造仮設住宅の特徴

住田町の木造仮設住宅は、従来のプレハブ工法の長屋タイプの仮設住宅とは異なり、戸建タイプです。戸建のため音漏れが少なく、長屋タイプの仮設住宅と比較するとプライバシーが守られ、内部も木造であるために木による調湿効果や癒し効果があり快適に過ごせます。また、木造仮設住宅が役割を終えた際には、木質バイオマスとして活用することも可能です。

住宅内に設置されたペレットストーブの燃料となる「木質ペレット」は、町内にある木材加工場の端材などを有効活用して生産されており、エネルギーの地産地消を実現しています。

＜上から見た木造仮設住宅＞

＜木質ペレット製造設備＞

経緯

2011 年
3 月 11 日　東日本大震災発災
3 月 13 日　住田町　木造仮設住宅　建設決定
3 月 22 日　住田町　木造仮設住宅　着工
4 月 25 日　火石団地　13 戸完成
5 月 2 日～ 順次　入居開始
5 月 6 日　　本町団地　17 戸完成
5 月 23 日　中上団地　63 戸完成　　（建設戸数　計 93 戸、避難者　261 名）
10 月～順次　ペレットストーブ設置

2014 年
8 月～順次　中上団地　退去した希望者へ払い下げ開始

2016 年
2 月 25 日　火石団地　「県道拡張工事による閉鎖に関する説明会」開催
10 月 12 日～11 月 2 日　火石団地　払い下げ公募
11 月 2 日　火石団地　閉鎖　／　全 13 戸　払い下げ決定

2018 年
4 月 25 日、26 日　「今後の仮設住宅支援に関する説明会」開催

復興支援イベント

2011 年 7 月 29～31 日　　場所：六本木ヒルズアリーナ
「more trees 木を知ろう。森を知ろう。～木造仮設住宅に入ってみよう～」開催

＜more trees 木を知ろう。森を知ろう。～木造仮設住宅に入ってみよう～＞

交流プログラム

2013 年 6 月、11 月　丸の内朝大学　アーバン木こりクラス　フィールドワーク訪問
2014 年 5 月、10 月　〃　焚き火マエストロクラス　フィールドワーク訪問
2014 年 6 月 29 日　木製プランター・野菜栽培キット配布

＜丸の内朝大学 フィールドワーク＞

＜プランター配布会＞

その他

2014 年 9 月 2 日　住田町　新庁舎落成式　参列
2015 年 3 月 22 日　シンポジウム「～つながりの風景～　住田町仮設住宅団地の暮らしと支援の現在」登壇
2016 年 2 月 9 日　住田町　町制施行 60 周年記念式典　参列
2016 年 2 月 25 日　株式会社ユナイテッドアローズ　web マガジン「ヒトとモノとウツワ」『LIFE311』特集記事掲載　http://taisetsu.united-arrows.co.jp/1304/
2017 年 8 月 9 日　株式会社ユナイテッドアローズ　web マガジン「ヒトとモノとウツワ」『LIFE311』特集記事掲載　http://taisetsu.united-arrows.co.jp/4010/
2017 年 8 月 17 日　株式会社ユナイテッドアローズ　web マガジン「ヒトとモノとウツワ」『LIFE311』特集記事掲載　http://taisetsu.united-arrows.co.jp/4151/

＜町制施行 60 周年記念式典＞

入居者の声

2012 年 12 月実施　暮らしのアンケート結果（配布 150 通、回答 107 通、回収率 71.3%）
木造仮設住宅の暮らしに「満足している」、「安心できる」と答えた方が過半数を占め、
騒音やプライバシーに関しては、7 割以上の方が「隣の生活音が気にならない」等の肯定的な評価を示しました。
これは、木造戸建て住宅であることが大きな要因になっていると考えられます。

＜木造仮設住宅の様子＞

火石団地の閉鎖

2017 年 4 月より火石団地付近の県道拡張工事が開始されるにあたり、最終的に居住されていた 3 戸の入居者の方について、2016 年 2 月 25 日に閉鎖に関する説明会を実施しました。3 戸の内、再建先が未定だった 2 戸の入居者の方に本町団地及び町で用意した住居へ転居して頂き、2016 年 11 月 2 日の最終退去をもって火石団地は閉鎖となりました。

木造仮設住宅の再利用

再建されて転居された方からの再利用希望の声が上がったことから、転居された方を中心に木造仮設住宅の再利用を目的とした払い下げを実施しています。
2014 年 8 月から順次開始し、中上団地　11 戸について払い下げを完了しています。

払い下げ価格：3 万円
解体・移設運搬等の費用：払い下げを受ける者の自己負担

閉鎖された火石団地　全 13 戸についても払い下げを実施しました。
払い下げ公募期間：　2016 年 10 月 12 日～11 月 2 日
応募総数：97 件

＜払い下げにより移設が決まった仮設住宅の解体作業＞

被災者以外の入居

各地から応援に来られている警察関係者や学校職員、役場職員などの公務及び準公務就労者を対象に、不足している町内のアパートや町営住宅の補助として、当初の入居者が退去された木造仮設住宅へ 2014 年 3 月より居住していただいています。

当初戸数及び入居者数

火石団地　13 戸
本町団地　17 戸
中上団地　63 戸　　建設戸数　計 93 戸、避難者数　261 名

2018 年 6 月現在　戸数及び入居者数

火石団地　道路拡張工事により閉鎖
本町団地　9 戸　21 名
中上団地　13 戸　27 名　　計 22 戸　48 名

被災者以外の入居者数（公務及び準公務就労者の入居）
本町団地　1 戸　1 名
中上団地　4 戸　6 名　　計 5 戸　7 名

2017 年 6 月現在　戸数及び入居者数

火石団地　道路拡張工事により閉鎖
本町団地　8 戸　25 名
中上団地　17 戸　38 名　　計 25 戸　63 名

被災者以外の入居者数（公務及び準公務就労者の入居）
本町団地　4 戸　4 名
中上団地　9 戸　11 名　　計 13 戸　15 名

2016 年 6 月　戸数及び入居者数
火石団地　4 戸　10 名
本町団地　10 戸　23 名
中上団地　20 戸　43 名　　計 34 戸　76 名

2015 年 6 月　戸数及び入居者数
火石団地　6 戸　18 名
本町団地　10 戸　25 名
中上団地　26 戸　66 名　計 42 戸　109 名

木造仮設住宅供与期間の決定

住田町では、様々な被災者住宅再建支援制度の終了が今後見込まれることや、仮設住宅の劣化が認められることなどから、仮設住宅入居者の住宅再建を支援するため、仮設住宅の供与期間を原則として 2019 年度（2020 年／平成 32 年 3 月 31 日）までとし、入居者に退去に向けた説明会や支援策を実施することが決定されました。

「今後の仮設住宅支援に関する説明会」開催
2018 年 4 月 25 日　中上団地、4 月 26 日　本町団地
参考記事：https://tohkaishimpo.com/2018/04/27/202806/

「LIFE311」の今後

木造仮設住宅に入居されていた方の大多数が新しいお住まいに移られましたが、未だ高齢者を中心とした自力再建の目途が立たない方々がお住まいです。

more trees は、支援目標 3 億円を目指し、木造仮設住宅にお住まいの最後のお一人が退去されるまで、引き続き活動を続けてまいります。
今後共、温かいご支援の程よろしくお願い致します。

以上